

# 令和7年11月 定例教育委員会 会議録（公開）

1 日 時 令和7年11月25日(火)13:30～

2 場 所 鳥取市役所本庁舎7階 第2会議室

3 出席者

教育長 : 河井 登志夫  
委員 : 前田 哲雄  
委員 : 谷口 なおこ  
委員 : 中井 英子  
委員 : 住川 英明

〔事務局〕

副教育長：徳高 雄一郎  
次長兼教育総務課長：山名 常裕  
次長兼学校教育課長：浅見 康陽  
次長兼総合教育センター所長：狩野 司  
校区審議室長：岡部 孝志  
学校保健給食課長：蔵増 彩  
文化財課長：佐々木 孝文  
生涯学習・スポーツ課長：浜田 哲弘  
中央図書館館長：中島 泉  
学校教育課参事兼指導係長：福山 暁博  
学校教育課参事：平戸 由美  
教育総務課長補佐：前田 英樹

〔傍聴者〕 なし

## 4 会議次第

行事報告及び行事予定について

〔教育総務課〕P. 3

### 【説明・協議事項】

- (1) 12月市議会定例会の附議案について
- (2) 令和7年鳥取市教育委員会10大ニュースについて
- (3) 散岐の教育を考える会要望書提出について

〔各課〕別冊  
〔教育総務課〕P. 5  
〔校区審議室〕P. 8

### 【報告事項】

- (1) 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について
- (2) 第2期鳥取市学校教育情報化推進計画について
- (3) 第5次鳥取市子どもの読書活動推進計画について

〔学校教育課〕P. 9  
〔学校教育課〕P. 15  
〔生涯学習・スポーツ課〕P. 18

## 【その他】

(1) 次期定例教育委員会の開催について

[ 12 月 ] 令和 7 年 1 2 月 2 2 日 ( 月 ) 13 : 30 ~ 鳥取市役所本庁舎 7 階 第 2 会議室

[ 1 月 ] 令和 8 年 1 月 3 0 日 ( 金 ) 13 : 30 ~ 鳥取市役所本庁舎

## 5 会議概要

行事報告及び行事予定について

〔教育総務課〕

教育総務課長（資料に基づき説明する。）

## 【説明・協議事項】

(1) 12 月市議会定例会の附議案について

各課長（資料に基づき説明する。）

## 【質問】

(谷口委員)

体育館の照明のカバーを外すということなんですけど、それは外しても安全面は問題ないのでしょうか。だとしたら、なぜついていたのかというのが不思議に思います。

(教育総務課長)

構造をイメージできるように説明しますと、LED 照明があつて、その LED 照明を覆う笠があります。その笠の下にカバーがあつて、透明なアクリルのようなセラミックのようなものが中についています。平成 26 年ぐらいに付けた照明のようなんですけど、長期間ずっと照らし続けていくに従って、アクリルの部分がだんだん熱を帯びてきていて、その熱を帯びている部分が少しずつ溶けてきて最終的にそれがポロポロ落ちるような感じになってきています。高所にあるということとそもそも笠がついているものなので、そこは外しても特段問題ないだろうということです。今後また落下してくる可能性があるので、この際全部外してしまおうと。作業的には足場を組んで取っていく作業になるので、落下が見られるところだけだとまた足場を組むところから二度手間になってしまうので、この際全部外してしまおうということで、同じ業者さんが入れられた部分については全て外すような形にしています。笠がついているので、特段 LED 照明の方への影響は大丈夫だろうということで作業を行うことにしました。

(谷口委員)

LED 照明は熱くならないと思ってたんですが、照明が熱くなってそこが溶けてくるということですか。

(教育総務課長)

実は設置をされた事業者さんは既に鳥取市にはいらっしゃらなくて、別の事業者さんに見てもらいました。照明がバツのような形をしてるんですけど、そのバツの形で跡がついてて、そこがだんだん長い年数当てられて、そこだけが溶けてきてるところです。熱というか LED 照明の照射の影響でカバーになっている物質が影響を受けて溶けてきているってことのようにして、設置時には全くそういうことも想定もされていなかったようです。なのでこれから夜も社会体育で学校とか使ったりするみたいなんですけど、昼間よりも長期間そういうところで使ったりすればするほどやはり落ちてきやすいというようなことも見えてきたので、もうこれは外した方がいいだろうということで作業を行います。

(谷口委員)

わかりました。

(住川委員)

学校給食運営事業費のことで、学校給食の持続的な運営に向けた検討の場というものが設置されて今後のスケジュールに沿って検討が進められると理解しております。それで、検討内容につきまして、給食の単価のことは先ほどお話がありましたし、あとは地産地消や食育の推進に向けた計画でありますとか、単価の統一といったところについて検討するということも書面で理解しました。そこでお問い合わせなんですが、栄養教諭、あるいは調理師という方々の雇用が不安定でなかなかきちんと確保できなかったりとか、あるいはそれぞれの生活の時間のやりくりによって時々不安定になったりとか、そういった波が生ずるようなこともちょっと聞いたことがございます。特に検討事項として人事的なことは挙げてないんですけれども、そういう点では何か検討する必要はないのでしょうか。その点、お聞かせいただけたらと思います。

(学校保健給食課長)

人事的なことにつきまして、まずは栄養教諭、栄養職員については県費の職員ですので、その方たちは学校の先生たちと同じような感じで雇用がなされてます。調理員につきましては、鳥取市には8つセンターがありまして、それぞれ委託という形で出しています。委託している業者の方で雇用については検討していただいています。この度の検討の場については、あくまでも鳥取市の給食、例えば予算的に本当にこれで大丈夫なのかとか、栄養価がちゃんと担保されるのかとか、そういったところを検討していくことにしております。人事的なものは検討することは考えていません。

(住川委員)

問題がなければ特に検討も必要ないんだと思うんですが、私の経験でいうと附属学校の給食センターで、持続的に安定的に人事を行うのがずいぶん苦しかったということもありましたので、参考までにお聞きしました。

(学校保健給食課長)

ありがとうございます。この度、来年度から5年間の給食センターの調理委託ということで、今プロポーザルをしているところでして、人員の方は確保してくださるというふうに考えております。

(住川委員)

よかったです。もう1つお願いします。弁護士さんの事案があったと思います。12番の事務局運営費のところで、弁護士さんの費用がこれだけのお金だということで、金額のことについてどうこういう立場ではないんですけれども、この件について、事案が生じてから弁護士契約を行ったという風に理解してよろしいでしょうか。

(総合教育センター所長)

この件に関しましては事案が起こってから弁護士相談をしていっているところですが、昨今問題が学校で起こっていることについては、いつもことあるごとに弁護士にはお世話になっているところでございます。この件に関しましては事案が発覚してから相談をしているというところです。

(住川委員)

といいますのも、例えばその度ごとにというよりも顧問契約をされてやった方が経済的にはいいのではないかと思ったり、セカンドオピニオンをまた別の弁護士さんからもらったりっていう、そういう体制のこととお金のことをちょっと考えたもので、質問しました。

(総合教育センター所長)

この件につきましては、県の事業に使うって弁護士相談をさせていただいておりまして、もちろん鳥取市にも顧問弁護士さんもいますし、昨今は法テラスの弁護士さんとも一堂に会して連絡会を持ったり、そういったこともしております。複数の弁護士さんに対応していただいているところでございます。

(教育長)

私の方から追加で、基本的には鳥取市も顧問弁護士という契約をしておりますし、県教委の方も顧問弁護士という契約をしておられます。それは何か問題が起こったときに一時的に相談をする。こうやってやり取りをする。その中で例えば訴訟というところになると、それは顧問弁護士料とは別でそれに特化した経費というのが発生しますから、その場合は新たに顧問弁護士にお願いするのか、また他の弁護士にお願いする場合もありますけども、一般的には最初に訴訟があった段階で、まず手付金というか、事前の分を支払します。それからあと残り、訴訟が片がついて終わったときに、終わりの報酬を払います。今回のこの分というのは終わり、精算金といいますか、成功報酬といいますか、そういう部分だということでご理解いただいたらと思います。

(中井委員)

指定管理の 22P について、すごくたくさんの施設を一緒に指定管理の選定をされているんですが、これはどういう理由で一緒に全部やっているんでしょうか。

(生涯学習・スポーツ課長)

気高町と鹿野町と青谷町と地理的に近い地域という形で統一されてますので、そこにあるスポーツ施設ということで、グルーピングできるという形でしております。

(中井委員)

いつもこのくくりで 5 年ごとにしておられるのですか。

(生涯学習・スポーツ課長)

ここ何年かはこのようにしております。

(中井委員)

事業内容のところの 2 つ目の段落のところで「地域の 20 年先の未来を見据えた」ということなんですけども、これは指定管理自体は 5 年だと思えるんですけど、この 20 年先までのビジョンみたいなことを求められてるっていうのはどういう意味なんでしょう。

(生涯学習・スポーツ課長)

指定管理者の方が提案として先々まで見据えてやっていきたいということでしたので、この資料はそれをそのまま使わせてもらっています。

(2) 令和7年鳥取市教育委員会10大ニュースについて  
教育総務課長（資料に基づき説明する。）

協議の結果、次の項目を10大ニュースとすることに決定した。

- 鳥取市立学校適正規模・適正配置基本方針にもとづく初のブロック別協議会開催
- 令和によみがえる！鳥取城大手門「中ノ御門」
- 逢坂小学校の浜村小学校への先行編入決定
- 指定避難所となる学校体育館への空調設備整備に着手
- 鳥取市立西中学校相撲部が全国中学校体育大会で初優勝
- 民間スイミングスクールを活用した水泳学習のモデル事業に着手
- 全国高等学校総合体育大会ホッケー競技と相撲競技が鳥取市で開催
- 東京2025世界陸上ジャマイカ代表選手団が鳥取市で事前キャンプ
- 「とっとり県民の日」献立！市内学校給食に鳥取県産梨、県産牛が登場
- 鳥取市立桜ヶ丘中学校の生徒が「第47回少年の主張全国大会」で内閣総理大臣賞を受賞

(3) 散岐の教育を考える会要望書提出について  
校区審議室長（資料に基づき説明する。）

【質問】

(中井委員)

今後の対応についてですが、河原と佐治と西郷ですか。

(校区審議室長)

河原町内は河原第一小学校、西郷と散岐の3つの小学校がございます。今、西郷が準備をされています。

(中井委員)

河原の3つをまとめるというか、最終的には鳥取市立学校南ブロック協議会っていうのが、その河原をとりまとめるのでしょうか。

(校区審議室長)

河原もあるし、佐治と用瀬もあります。エリアを鳥取市5つのブロックに分けている中で、そこが1つのブロックになります。

(中井委員)

今回は河原の中の散岐から考える会の要望が出たということですね。

(前田委員)

ブロック協議会から要望書が出るのは初めてということで、どういう意味というか良さがあるのでしょうか。

(校区審議室長)

ブロック協議会という形で考えていくという、適正規模適正配置というものに基づいての要望が出されて、それに基づいて動いていくのは今回が初めてになるかと思います。良さ悪さというところでいきますと、広域的な統合ということも視野に入れる中で例えば中

学校区をまたがるような統合とかがある場合には、やはり広域で考えていく必要というか、ご理解いただくというか、1つにしていくところもあるということで5つのブロックを分けて、何個かの中学校区をまとめた形での協議ということでさしていただいています。

(前田委員)

今回は千代南の方は入らないですね。

(校区審議室長)

そうです。

(前田委員)

散岐の考える会が、全体のブロックの要望っていうのは、結局小学校3つを1つにするのか、とりあえず西郷と散岐なのか、そういう具体的な希望はまだですね。ゆくゆくは義務教育学校みたいな話もありましたし、場所を河原中に持っていったら義務教育学校しなくなってくると思うんですけど。

(校区審議室長)

そういったことも今後のことになります。

(前田委員)

それは審議会の方に検討してもらったらいというような形なのか、それとも向こうの方がこういう形を要望するっていうことなのか。

(校区審議室長)

次の段階はおそらく河原中学校区の中で情報の共有をさしてもらって、そのあたりで話し合いながら、最終的には用瀬、佐治、河原の中学校区全てのところでの合意形成をもらいながらどうしていけばいいのかというのを今後進めていくというような流れです。

(前田委員)

河原だけで決めること自体が本当にいいのか、もっと広く考えた方がいいのかっていうような思いも持たれながらのこういう動きというわけですね。

(校区審議室長)

そういった視点を持ちながらという考え方は。

(前田委員)

河原町内だけのことじゃないということですね。千代南中校区の方もそういう動きには乗ってきてくださってるわけですね。ブロックでまとめて要望書を出されるということは、千代南区の校区の方も河原のそういう動きに対して一緒に検討してもいいと。そういう検討組織に入って一緒にこれから協議させてもらってもいいと考えておられるということですね。まだどういう形で統合が進むかという話はまだわかりませんよね。まず河原が動き出したと。それに千代南がどれだけ乗ってくるかというような形なわけですね。

(校区審議室長)

南ブロック会議で話をしたときに、まずは河原の中で協議を進めませんかというような形で、今協議を進めているというところは、実態としてあります。

(教育総務課長)

昨年南ブロックで協議しようというのがスタートとしてあって、それで実際まとまっていこうかっていう動きになっているのは河原だけなんですけども、元々南ブロック全体で話し合いがスタートしたので、そういう動きになったことを用瀬や佐治に返さないといけないので、ブロック全体でまた協議の場を持っていくということです。

(前田委員)

話が大きくなる可能性もあるということですね。

(教育総務課長)

ただ、今の状況としては、実際動いてるのは河原だけになってきます。

(中井委員)

今回は散岐のことについてなんだけど、最終的にはこの南ブロックから要望を出さないといけないということですか。

(校区審議室長)

そういう形になります。

(前田委員)

散岐と西郷の検討委員会が、その2小学校区だけで出すっていう形もあるわけですね。まず、散岐と西郷が1つなるような形で出してくることもあるということですね。大きな動きですね。

(教育長)

大きな5番のこれまでの経過についてというところで書いてあるんですけども、令和7年3月に南ブロックの検討会っていうのを集めたんです。そこでは河原中校区と千代南中校区、千代南っていうのは佐治と用瀬で、集まってもらって現在の状況を話しました。その中で、ひとまずはこれを2つに分けて、河原中校区と千代南中校区、それぞれ話をしようということになって、河原中校区の中から河原第一も要望書が出てきました。これは既に3月の時点で出ています。それから散岐が出てきました。西郷も早晚、出てくると。そうすると、河原中校区での色々な話が出てくるけども、全体話としては南ブロックでまとめたという形にして、要望書が上がってくると。全部セットで千代南も一緒にまとまるのか、それとも河原地域だけになるのかというのは今後の話なんですけど、ただ学校規模適正配置等の計画ではこのブロックでまとめていくっていう考え方なので、1つにするという意味ではないですが、そういう考え方をっていうところでは言ってるということです。

(前田委員)

今日も散岐に行きましたけど、現実には待ってられない状況もありますよね。大きな動きで話をまとめていってる間に、入学してくる子がいなくなってしまう状況も考えられるので、早くというか、いい話がまとまればと思います。それも見ながら話してるでしょうけど。

(中井委員)

写真の竹内会長は、散岐の考える会の会長さんですか。

(校区審議室長)

そうです。

**【報告事項】**

- (1) 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について  
学校教育課長（資料に基づき説明する。）

**【質問】**

(谷口委員)

先生の研修の機会の創出について、今まではこういうものはなかったんでしょうか。

(学校教育課長)

今までも研修はありました。鳥取市として学力向上の研修でありますとか、授業作りの研修というのは実施していたんですが、それに加えて自主的に学びたい、さらに学びたい人が学べるような機会を作っていきたいなど。特に若手の教員が増えていますので、そういう人たちが学べるようなワークショップ型の研修というものを新たにやっていきたいと考えています。

(谷口委員)

例えば、自分の好きな時間に何か動画が見れるとか、そういう取り組みでしょうか。

(学校教育課長)

オンデマンドとか、そういうことも含めてやり方も検討していますし、時間も、勤務中は子どもがいるのでなかなか出られないと思うので、例えば放課後の時間を設定するか、なるべく出やすいようなあり方ということも含めて検討していきたいと考えています。

(谷口委員)

先生の働き方改革が進められてる中で、こういう時間が先生に取れるのか、並行してできるのかっていう心配があるんですけど、この研修をしていただいて学ぶ意欲の向上とかそれが将来的には子どもたちに返っていく事業なので、ぜひ進めてほしいと思います。これに出るために何か色々なお仕事が後回しとかにならないように仕事がうまく分配できるような、そういう人材を増やすとか、授業の準備の誰でもできることを新たに事務補佐的なことで雇って、そういう人にやってもらって、空いた時間にできるように、先生の負担も軽くなるようなことも一緒に進めていただけたらなと思っています。

(学校教育課長)

前回の総合教育会議でも、国の方が計画を策定しなさいということで、子どもと向き合う時間を増やすために、やはりそういうことも並行して進めていかないとはいけません。教材研究であるとか、子どものことを考える時間をなるべく生み出せるように力を入れていきたいと思っています。

(中井委員)

アンケートの結果を見ると、小学生も中学生も好きなんだけれども分からないっていう回答が多いです。それは多分先生がすごく楽しい授業をしてくれてるんだけれども、実際に自分が問題を解いてみると解けないというようなことなのかなと思います。その解決っていうとやはりたくさん問題解くっていうことなんじゃないかなって思うんですけど、授

業の中で時間はなかなか取れないのかなって思います。例えば、宿題で今日習ったところを家で解く時間で定着するというか、自分自身が1人で解いてみて解けるかどうかの確認ができていないかということも大きいのかなと思ったんですけど、宿題は今は先生に任せられてる状態なのかなのでしょうか。量とかはどうなんでしょう。多くなってる状況なのかな少なくしていくような状況なのかなどうなんでしょう。

(学校教育課長)

宿題の量というか裁量というか、それは大体学校で揃えるようにすべきだと思いますし、しているとは思いますが、それぞれの担任であるとか、教科担当者によって温度差があるのも事実かなと思っています。やはり過重なというか、子どもたちに負担になるような量ではいけませんし、かといって学びが定着しないような負荷の少ないものでもいけないと思うので、その辺のバランスがなかなか難しいところではあると思います。ただ、とりあえずやっておけばいいみたいな宿題では子どもたちの学力が身につかないと思いますので、その日に学んだことがしっかり定着できるような内容であったり、あるいは、次の日の授業と結びつくような授業と連動している家庭学習であったり、という内容の部分もあると思いますので、これからは量の部分と内容の部分というのをしっかりと学校現場とも状況を確認しながら、どうあるべきかという話をしていきたいと思っています。

(中井委員)

学校訪問に行ったときに、今日はここまで、ここから先は宿題でとかっていう言葉って全然聞いたことがなくて、自分たちの学生だった頃って結構この下の問題のところは家でやってきて明日出しなさいとかあったと思うんですけど、今のところ訪問に行っていて宿題の話は聞いた記憶がありません。宿題ってあんまり最近は出さないのかなと思っています。出たんですけども、出てはいるんですね。

(学校教育課)

そうですね。例えば、算数や数学で言うと、みんなで新たな問題を解きます。その解いたものが本当に分かったかどうかを授業の後半のいわゆる適用題として、それを活用した問題をやってみる時間を必ず授業の中で取り入れるように時間配分を考えながら、そういうところをしっかりとやっていきましょうというのが、鳥取市でいう「徹底の時間」になるので、それは色々な学校で意識してやっているかなと思っています。そこでやったものをさらに時間をかけて家でもできるかどうかというのが家庭学習の意味だと思いますので、そういう繋がりがあるような家庭学習というのをしていけないかなというふうには思っています。

(中井委員)

宿題もやはり学力向上にはすごく大事な要素なのかなと思いましたので、宿題の量とか内容についてもいろいろ考えていただくといいのかなと思います。

(学校教育課長)

やはり都会に比べて、通塾率も低いですし、学ぶ機会であるとか、学ぶ意欲を湧かせるであるとか、学ぶ意味を伝えるであるとか、そういうところもあわせてやって行きたいなと思っています。

(住川委員)

全体を拝見してやはり質問紙調査の発表とそのための資料や文章、話の組み立て方、そういった工夫というのをあんまりしていない、この肯定的な回答率が低いっていうことの問題の大きさというのをすごく感じました。それを踏まえてこの学力向上に向けた取り組みの2番がご提示いただいたんだらうなと思って、このご提示については全くその通りだし、このように進めていただけたらというふうに強く願います。私自身、なかなかそういったプレゼンとかがあまりうまくないので非常につらい部分もあるんですけど、振り返ってみますと、表現力とか活用力をつけましょうということで学びを作ろうとしてもなかなか思うようには行かないと感じています。これは個人的な思いかもしれませんが、まずグループとか少人数で対話的な学びの機会を増やして、その中で自分の考えたことをまとめたり、友人同士で共有をしたりとか、自分の足りないところを補ってもらったりとか、そういった対話的な学びを小学校低学年の頃からどれだけ積み上げができてるか。そういうことでその後の表現力やプレゼン能力とかに響いていくんじゃないのかというふうに感じています。ですので、すぐにICTをどう使ってどうプレゼンをするかって考えてしまいがちなんですけど、ICTと同時にそういった素朴な対話的な学習をどう積み上げるかっていうことが、むしろ大事なんじゃないかなという感じを持つわけです。ですので、その辺りご留意の上で2番を進めていっていただけると、ありがたいなというふうに考えております。その点、どんなふうにお考えかでしょうか。

(学校教育課長)

ありがとうございます。今おっしゃられたような対話的な学びの積み上げというのはとても大事だと思っていて、おそらく計画訪問でも各学校の校長が説明するときに、対話的な学びとか協働的な学びというようなことを一生懸命やっていきたいということを話していたと思います。やはりインプットだけではなくて、学んだことを出すということで定着するということもあると思いますし、それから学んだことを自分の言葉で人に伝える、その情報を活用して学びを深めていくってということもあると思いますので、タブレットの睨めっこ、先生から聞くだけではなくて、言われるとおりの友達と一緒にとか、それを活用して説明するとかっていう機会もしっかり取れるような授業になっていくように、学校現場と一緒にこちらも伴走支援をしていきながら、深めていきたいなというふうに思っております。

(住川委員)

私も偉そうなこと言いましたけれども、それがいかに特に小学校低学年だと難しいか、結局授業がもうわやになってしまうというか。もう全然がちが明かなくなっちゃって、先生方が覚悟持ってやらないとなかなか大変だらうなというふうに思うんですけど、特に若い先生に失敗してもいいからそういう試みをやってくれという。そういう任せてやらせてみるっていうのかな、そういう思いで何とかならないかなというそんな苦しい思いです。

(前田委員)

魅力と徹底ってよく聞いてきたんですけど、やはり今のテスト内容もそうだし求められてるものがもう魅力と一緒に獲得していかなければならない資質能力ばかりじゃないかなと思います。そういう資質能力を見るための試験の問題になってきてますし、やはり魅力の部分で、この2番のところの授業作りの研修というのがやはり忘れてはいけないなと思います。今日も若い先生がおられましたけど、やはり自分が引いたレールで授業されないと不安だし、子どもたちが面白いこと言いかけてるのに先生はこっちの方向でやってい

きたいからと、こういうことで子どももせっかくやりたいことを見つけてるのに、シュンとなってしまっていたいな。先生のルールに引かれてしまって、なにかもったいないなと思うような授業をよく見ます。校長先生方も確かに教師指導じゃなくて、子どもが主導の授業にしたいんだって言われるんですけど、そのあたりの研修は方法論になっちゃうんですよね。僕らが教えても、若い先生に話しても、こうしたらいいよとかみたいなの方法論で先生が獲得して、その方法論を使おうとするからなかなか面白くない魅力のない授業になってしまっている。何か方法論じゃない、それぞれの先生方が持っている良さや感性を生かしたような何かもっと子どもを惹きつけるようなそういった授業をしていかないと、若いうちに身につけておかないと、なかなか大変なんだろうなと思います。多分、40代、50代になったときには、ますますこういう方向で進んでますから、もう知識だけを獲得させておけばいい時代じゃないので、というようなことを感じました。

(学校教育課長)

本当におっしゃるとおり魅力を上げていくっていうのが大事だと思っていて、この結果にも各教科の好きが全国平均とどうかということを挙げさせてもらってますけども、やはり鳥取市としては、成果の指標としてその授業が好きな子を育てているかどうかっていうのはしっかり見ていきたいです。魅力のある授業で、その教科が好きになればおのずと成績も上がってくるだろうという考え方でずっとこの魅力ある授業ってことを言ってきましたので、やはりその教科が好きになるような子を育てたいというふうに思いますし、言われたように若い教員はHOW TOというか、こうやったらこうなりますっていうことを求めがちですけども、そうではなくてどういうふうにしたら教科の本質に迫れるのかという部分っていうのをしっかりと学んでもらいたいなというふうに思いますので、研修も指導主事が言うばかりじゃなくて、たまには上手な先生の姿を見て学ぶとか、色々な角度での研修というのは考えていきたいなというふうに思っております。

(教育長)

この調査結果について、全国学力学習状況調査が全てではないとは思っておりますが、全国的に見ても年々、全国平均と鳥取県は差が大きくなっているというのがちょっと悩ましいところだと思ってます。今学校教育課長が説明しましたように、一番下に書いてありますけど、鳥取県の教育委員会の方もこのような対応というところで特に柱2のことについては、そのようなところで独自でこの状況を捕まえたいということがありますので、そういう流れだということもご承知いただきたいと思ってますし、また谷口委員さんも言われましたけども、働き方改革も考えながら、先生方がこういうことにしっかり力が注げるような周りの環境整備という意見もいただきましたので、やはり先般の総合教育会議でも首長との話し合う機会がありますので、また教育委員さんの方からもまたご意見をいただけたらというふうに思ってますし、このような一番下にあるような結果が出れば、またご報告をしてこの件についてはご意見をもらう機会も今後設けていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いしたいと思っております。

(2) 第2期鳥取市学校教育情報化推進計画について

学校教育課長 (資料に基づき説明する。)

【質問】

(中井委員)

ICTを活用した授業というのは、今までの授業を分かりやすくするための活用ということなのか、それだけではなくて授業の内容自体も変えていかないといけない部分があると思

うんですが、先の学力のところでプレゼンの能力向上とかそういうようなことはされるっていうお話でしたので、授業の内容自体も変えていかれるというような内容でよろしいでしょうか。

(学校教育課長)

内容というか活用の方法であったり、あり方であったり、そういうものも新たなこういう機器を活用して、より効果的に活用していく。例えば、今まで紙でやっていたことをデジタル上でやった方がより早く有効だというのはそっちにシフトしていけますし、情報共有なんかも場所が離れていたら、いちいち集まらないといけなかったのを離れていても情報共有ができるとか、様々な活用が考えられますので、教員の方も新たな発想で授業作りをしていくという方向にはなります。

(中井委員)

授業の内容自体も、例えばプレゼンの資料を作るだとか、そういうようなところも今までの教科書をわかりやすくするための活用だけじゃなくて、そのやること自体も変えなきゃいけないのかなっていうところもあるかなと思うんですけど。この前学校訪問で中学校に行ったときにポスターを生徒さんが作っておられて、完成度が高くて、すごいなと思ったんですけど、ああいうのは授業で習っているんでしょうか。

(学校教育課長)

そのポスターをどういう場面で作成したかというのはちょっとわかりませんが、例えば国語の学習の学んだことをまとめる活動としてポスター作りをするというようなことは今までもやっていました。例えば手で書いていたものをパソコン上で作成するっていうことはあるかなと思います。ただそういうときにやはり ICT のアプリだとかソフトを使う技術も必要になってくるので、そういうのを教える時間っていうのは新たに取っていかないといけないかなと思います。

(中井委員)

本当に今後プレゼンできるような人材を育成していくことは大事なことだと思うんですけども、例えば、プレゼン資料を作るような授業は中学校ではちょっと早いのかもわかりませんが、そういうような内容も今後は取り入れていかれる予定ということですか。

(学校教育課長)

教科もそうですし、例えば総合的な学習とかのまとめでプレゼン発表するとかもあるので、そういうときにソフトの使い方を学んでそれを教科でも活用できるように行ったり来たりしながら、有効に使っていくってことは今後していけないといけないスキルかと思います。

(中井委員)

プレゼンの技術だったり、人に分かりやすく説明することや資料作り、自分の言葉での伝え方とかっていうことも大事になってくると思うので技術と合わせて、リアルのところまでをやっていけるといいのかなと思いました。

(3) 第5次鳥取市子どもの読書活動推進計画について  
生涯学習・スポーツ課長（資料に基づき説明する。）

【質問】

(谷口委員)

読書活動推進ということなんですけど、今小学校の読み聞かせボランティアさんが入る読み聞かせの機会がすごく減っているというふうに聞いています。読み聞かせのボランティアで入ってる方から聞いて、月に1回とかでは全く足りないと。読書って自分でするのが一番だとは思いますが、やはり本を読んで楽しいっていうのは小さい頃からの読み聞かせもあると思います。この前私達の団体でもミニ運動会をする前にそのテーマとなる絵本の読み聞かせを最初にしようって言ってしました。そしたら、結構大きな子もいたんですが、低学年向けのお話にすごくみんなが集中して見て、同じところで笑ったりしていました。読み聞かせをしてもらうっていうのはきっといくつになっても楽しいと思うし、集中して絵本に触れる機会だと思うんですが、残念ながら今学校現場ではそこに割く時間がないということで、何ヶ月かに1回しか回ってこない状況があるようです。この推進計画を進められるにあたっては、その時間も増やしていかないとだと思います。やり方もあるとは思いますが、そこから図書室に行って本を読んでもらうみたいな流れに持っていけるような司書の先生とのやり取りとかもそうですし、何か子どもたちが実際に本を読むなり読んでもらうっていう機会を増やしていかないとどうもならないなと思うんですけど、どうでしょう。そういう時間をもうちょっと増やしていくというのは。

(生涯学習・スポーツ課長)

策定委員会の方でも様々な関係者が集まってる会になるんですけれども、やはり現場の声として、おっしゃられたような課題が真っ先に出て来ます。時間がないというか、そのときに本はあってもそれを手に取ってもらう方法というか、そういう仕掛け作りがやはり重要だなと。そういったことも背景にあって今回、人材育成とかそういう専門家というか仕掛け作りができるような方の研修も必要だなというところで、計画に入れさせていただこうという流れにはなっております。ただ実際問題どうやってそういう時間を取っていくんだということは、いい案をまだまだこれから模索していきます。

(谷口委員)

例えばタブレットの活用のところで、電子図書館を鳥取市も入れておられますが、あれを何か学校図書館でタブレットで貸し借りができるようになってと、今ふと思いました。読みたいと思っていても貸し出し中または予約待ちとかだとやはり読みたいっていう熱が冷めてしまう。となると、進めていく中ではそういう案もどうなのかなと。タブレットの使い方として合ってるのかどうかもわかりませんが、アナログで読む大切さも私はあっていいと思うし、なので、図書室で本を読むっていうのもそうですし、その電子図書館、図書室で借りたら家でも読めるのかなとか思いました。貸してもらって、それも何か宿題の中に含めていければ、いい感じで読書もできるかなって思ったんですけど、そういうのもまた何かのタイミングで入れていただけたらと思います。

(生涯学習・スポーツ課長)

仕掛け作りが重要だなと、その会議でも持ちきりでした。何かしら考えていかないとと思います。

(中井委員)

私も谷口委員の意見ですごく賛成で、読み聞かせの時間ってすごく大事ななと思っていて、先ほど高学年の子も一生懸命聞いてたって言われたんですけど、小さいときから読み聞かせをしてもらっている子は多分すんなり世界に入っていけるんですけど、そういう読み聞かせの経験をあまりしないと、してもらったときに世界に入れないっていうのもあるのかなと思いました。図書館でそういうイベントに自分から行くのは結構ハードルが高いなと思います。学校の朝読書の時間にみんなが聞くだったらみんなが聞けるんですけど、読み聞かせのイベントするのでっていうことだとなかなかそこに行ってもそれを聞こうっていうのは難しいかもしれないので、やはり学校現場で読み聞かせの時間を作っていたらいいのかなと思います。

(前田委員)

朝読の時間って減ってきているんですかね。

(学校教育課長)

以前に比べたら減ってきたかなという感じです。

(前田委員)

あまりにも学校もしないといけないことがいっぱいあって、貴重な朝の時間ですもんね。流行り始めは月曜日から金曜まで全部この時間を取ったりしてましたけど。

(住川委員)

例えば、小中の合同の図書館であるとかそういう場所もあるとは思いますが、異年齢交流という形で上の学年の子どもが下の学年に読み聞かせをしたりとか、あるいはその逆があったりとか、何かそういう活動の中から本当に読み聞かせの良さ、親から子へというのももちろん大事ななことだと思うんですが、そういう異年齢活動の中で何かそういう新しいやり方ができないだろうかということも考えたりいたします。あと大人のための漫画とか絵本とか、案外脚光を浴びてる部分もあるので、新たなそういったものを募集してみるとか、ちょっと思い切った企画も刺激的でいいのかなという思いもありますので、色々ご検討をいただけたらと思います。要望でございました。

(教育長)

いろいろなご意見ありがとうございました。また参考にさせていただきたいと思います。

## 【その他】

(1) 次期定例教育委員会の開催について

[ 12月 ] 令和7年12月22日(月) 13:30～ 鳥取市役所本庁舎7階 第2会議室  
[ 1月 ] 令和8年 1月30日(金) 13:30～ 鳥取市役所本庁舎7階 第2会議室

閉会 15:40